導入事例 | 連携先 | 基幹システム,SAP,Oracle,Box,統合人事システム,会計システム | 利用シーン | モダナイゼーション,人事データ活用

Asteria warp

大阪市高速電気軌道株式会社（Osaka Metro）

会計・人事給与などの基幹システムと業務システム間の連携を自動化

100本超の連携を標準化。人事給与システムを刷新し、年間約3,700時間の作業・管理工数削減

Osaka Metroは、大阪市内を中心に地下鉄・ニュートラムを9路線134駅運営するほか、バスやタクシーなどの事業も展開する交通事業者である。中期経営計画において「交通を核にした生活まちづくり企業への変革」を掲げ、その実現に向けた経営基盤高度化を進めている。同社では、2024年の会計システム刷新を機に、従来のスクラッチ開発と手作業に頼ってきたシステム間連携のあり方を見直し、会計・人事給与などの基幹システムと、各種業務システムとの連携を担う標準基盤として「ASTERIA Warp」を採用。開発パートナーであるフリーダム株式会社の支援のもと、100本を超える連携処理を構築・自動化した。その結果、運用工数の大幅な削減をはじめ、ジョブ管理の一元化や、システム開発・運用の属人性が解消され、保守性が向上するなど、様々な成果がもたらされている。

導入背景

- 長年の運用の中で連携処理が複雑化し、手作業による運用負荷やミスが課題となっていた
- 会計システムの刷新と人事給与システムの拡張に伴い、SaaSを含む各種業務システムへユーザー情報や組織・権限情報を自動で連携できる統合基盤が必要になっていた
- システム間連携をスクラッチ開発していたため、開発工数の増大、属人化、プログラム品質のばらつき、保守負担が課題となっていた

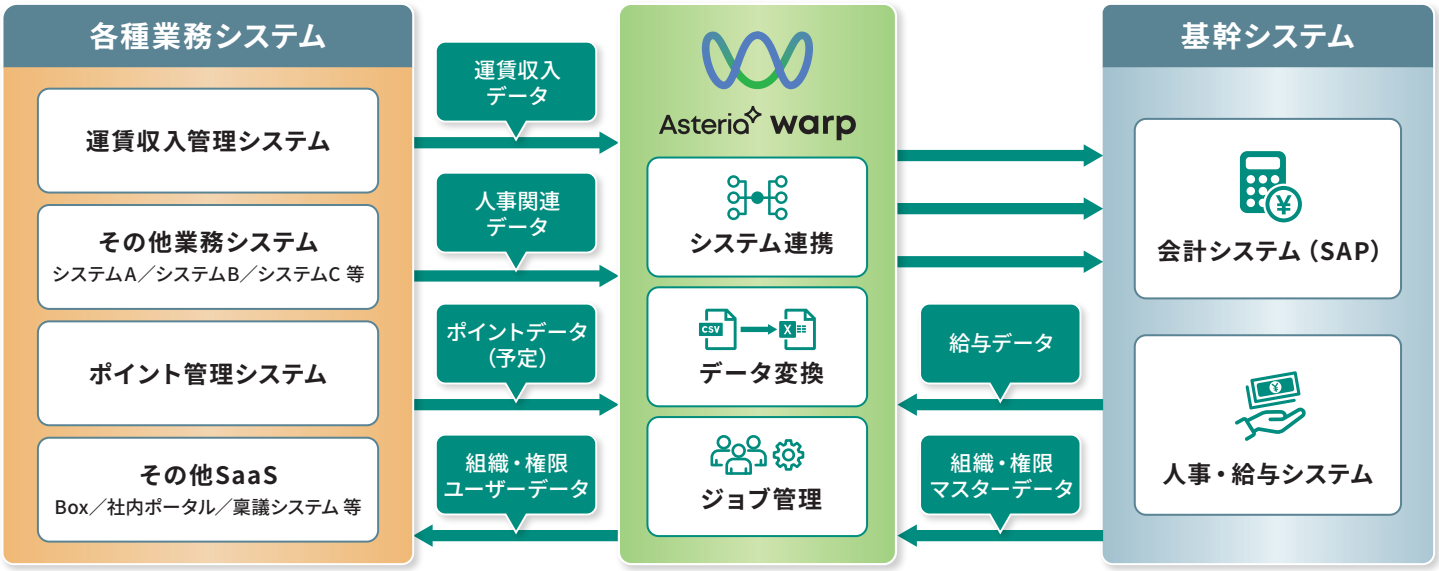
選定ポイント

- 接続先システムの複雑なAPI仕様を解析することなく、直感的に連携を構築できるアダプターが豊富に利用されている
- 会計システム刷新時に支援をした株式会社フリーダムがASTERIA Warpの開発・保守に精通しており、スピーディにプロジェクトを進めることが可能だった
- GUI上で連携処理の構造を視覚的に把握でき、汎用ロジックの共通化も容易なため、開発・運用の属人化を防ぎ、高い保守性を確保できる

効 果

- **開発リードタイムの短縮**
  最大5名の開発体制で、連携処理を構築。専用アダプターの活用と連携処理の標準化により、スクラッチ開発と比べて開発リードタイムを大幅に短縮
- **属人性の解消**
  連携処理が標準基盤上で可視化されたことで開発・運用の属人性が解消され、担当者の異動に伴う引き継ぎがスムーズになったうえ、障害対応のスピードも格段に向上した
- **作業・管理工数の削減**
  データ連携の運用自動化とジョブ管理の一元化により、今後は年間約3,700時間の作業・管理工数の削減を見込んでいる

システム概要



ユーザーのひと言



会計システムの刷新に伴って、運賃などの収入関連情報や組織の権限、ユーザーマスターなどのデータを業務システムとやり取りする標準データ連携基盤として「ASTERIA Warp」を採用しました。信頼性の高い運用が可能となり、特に連携処理の可視化によって開発の属人性や人手による運用負荷、ミスの発生といった課題を解消できました。今後はポイント管理システムとの会計連携など、新たな業務領域への適用も進め、全社的なバックオフィスの業務効率化とモダナイゼーションを加速させていきたいと考えています。

Osaka Metro 人事部 AX推進課 課長　浦野 敦雄 様
同 係員　藤林 日菜 様

User Profile

Osaka Metro

所 在 地 ：大阪府大阪市西区九条南1-12-62
会 社 概 要：地下鉄・バス事業ほか
業　　種：運輸業ほか
U R L ：https://www.osakametro.co.jp/

Asteria
アステリア株式会社
WEB : https://www.asteria.com/

このカタログに記載された情報は2026年7月現在のものです。内容は予告なしに変更することがあります。本文中に記載されている製品名、サービス名、会社名などは、一般に各社の登録商標または商標です。なお、本文および図表中では、「™」、「®」は明記しておりません。